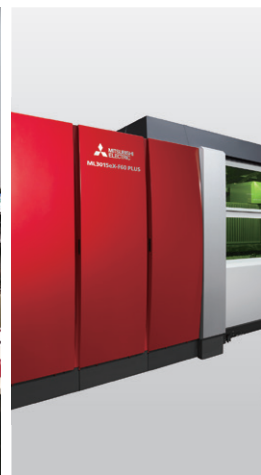


# 三菱電機グループ CSRレポート 2016

ハイライト



## 目次

■ 編集方針／ 会社概要及び業績	1
■ 三菱電機の事業分野／ 目指すべき企業の姿	3
■ 社長メッセージ	5
■ 三菱電機のCSR	7
■ CSRの重要課題	10
■ 持続可能な社会の実現	11
■ 安心・安全・快適性の提供	13
■ 人権の尊重と多様な人材の活躍	15
■ コーポレート・ガバナンス、 コンプライアンスの継続的強化	17
■ 社会貢献活動	19
■ 三菱電機グループ CSRの取組 ウェブサイト/ハイライト 掲載情報一覧	22

本「ハイライト版」は、持続可能な社会の実現に向けた三菱電機グループのCSRの取組について、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを目的に作成しました。三菱電機グループのCSRの全体像をお伝えするとともに、主に2015年度に特定した三菱電機グループのCSRの4つの重要課題に沿って、その「基本的な考え方」と取組事例を紹介しています。三菱電機グループは、社会への説明責任を果たし、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの輪を広げていきたいと考えています。忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

### ● 報告対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日(次回発行予定2017年9月)  
※2016年度以降の方針や目標・計画などについても一部記載しています。

### ● 報告媒体について

詳細な非財務情報は「CSRの取組」ウェブサイトにて、そのうち環境情報は「環境への取組」ウェブサイトにて報告をしています。「CSRレポート」(PDF冊子)はホームページで開示し、「詳細版」と「ハイライト版」を発行しています。

#### CSRの取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>



ウェブサイト



詳細版



ハイライト版

#### 環境への取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>



ウェブサイト

※各媒体の掲載情報についての詳細はP.22をご覧ください。

# 会社概要及び業績

## 会社概要 (2016年3月末現在)

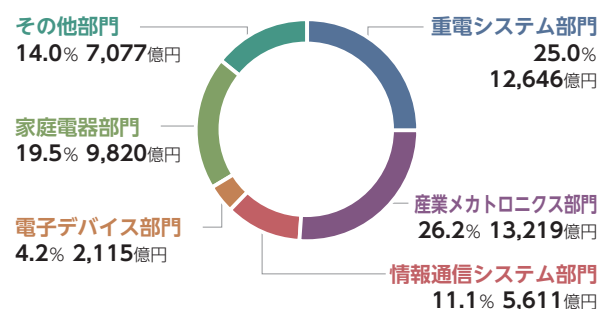
社名:	三菱電機株式会社
本社:	〒100-8310 東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビル
代表者:	柵山 正樹
電話:	03-3218-2111 (代表)
設立:	1921年1月15日
資本金:	175,820百万円
発行済株式数:	2,147,201,551株
連結売上高:	4,394,353百万円
連結総資産:	4,059,941百万円
連結従業員数:	135,160人

## 業績

	第144期(2014年度)	第145期(2015年度)
売上高	4兆3,230億円	4兆3,943億円 (前年度比 102%)
営業利益	3,176億円	3,011億円 (前年度比 95%)

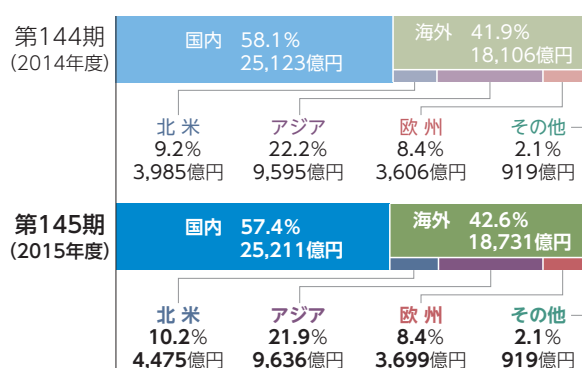
	第144期(2014年度)	第145期(2015年度)
税金等調整前当期純利益	3,229億円	3,184億円 (前年度比 99%)
当社株主に帰属する当期純利益	2,346億円	2,284億円 (前年度比 97%)

### 部門別売上高



(注) 部門別売上高には、部門間の内部売上高(振替高)を含めて表示しております。

### 向先地域別売上高



(注) 向先地域別売上高は、顧客の所在地別に表示しております。



# 三菱電機の事業分野

**ビル** 世界最高品質の昇降機を追求し、ビルの安全・安心を守る。

80年以上の歴史を持ち、これまで約90カ国に昇降機を送り出してきました。国内では3台に1台は三菱電機の昇降機と言われています。またビルマネジメントシステム事業では、入退室管理などのビルセキュリティシステムや、ビルの設備を管理、制御するビル管理システムなどにより、安全・安心に加え、省エネにも貢献しています。

主な製品

- エレベーター ■ビル管理システム
- エスカレーター ■ビルセキュリティシステム

**公共** もっと良い未来のために、確かな生活基盤を最先端の技術で。

高度な社会インフラに貢献するライフラインや公共施設・サービスなど、生活基盤を築く数々の分野で事業を展開しています。水環境システムや先端医療を始め、安心・安全な社会づくりへの貢献、そして映像エンターテインメントの提供まで、社会が必要とするものをつくり出し、暮らしの質を高めています。

主な製品

- 水処理技術 ■航空管制訓練システム
- 粒子線治療装置 ■大型映像装置
- 防災情報システム

**交通** 車両用機器・システムをトータルで提供する「鉄道の三菱」。

1964年の開通以来、全ての新幹線の車両システム、運行システムの開発に携わってきた技術力。そして、様々な分野で培ってきた電力や通信などの技術を集結し、省エネにも貢献しています。既に世界30カ国以上で当社の製品が採用されています。これからも省エネで安全、快適な国内外の鉄道を支えています。

主な製品

- 車両用電機品 ■車両用空調装置
- 車両情報管理装置 ■電力管理システム
- トレインビジョン ■列車運行管理システム

**宇宙** 宇宙という広大なビジネスフィールドで先端技術が活きる。

これまでに世界各国で500機以上の人工衛星開発に参加しています。宇宙環境を再現できる試験設備を備え、人工衛星の設計・製造・試験を一貫して自社内で行うことができます。また、ハワイの「すばる望遠鏡」やチリの「ALMA望遠鏡」など、大型望遠鏡の分野でも世界をリードしています。

主な製品

- 人工衛星 ■大型望遠鏡 ■人工衛星搭載機器

**半導体・電子デバイス** より豊かな社会を支えるキーデバイスを提供。最先端技術に挑戦。

家電から宇宙まで、機器のキーデバイスとして活躍し、我々の暮らしを豊かにする半導体・デバイスを提供しています。特にパワー半導体は家電製品や産業機器、新幹線などの電力制御やモーター制御、風力発電や太陽光発電などあらゆる分野で活躍。その性能によって各分野で高い省エネ効果を生み出しています。

主な製品

- パワーモジュール ■光デバイス ■高周波デバイス
- TFT液晶モジュール

**ホームエレクトロニクス** お客様の快適な生活の実現のために。

キッチン・リビング・寝室等、幅広い生活シーンでお使いいただける家庭電器商品を提供しています。それぞれのシーンでお客様の期待にこたえ、更に期待を超える商品を提供することでお客様の快適な生活を実現してまいります。

主な製品

- 液晶テレビ ■冷蔵庫 ■掃除機 ■ジャー炊飯器

**産業・FA** リーディング企業として日本の、世界の「ものづくり」を支える。

シーケンサーやレーザー加工機など、多くのFA分野で国内トップクラスであり、世界三大メーカーとして各国の「ものづくり」を支えています。近年では、きめの細かい計測で設備やラインなどのエネルギー使用状況をリアルタイムで「見える化」することによる、工場全体での省エネソリューションも展開しています。

主な製品

- シーケンサー ■レーザー加工機 ■サーボ
- 産業用ロボット ■省エネ支援システム
- 配線用遮断器

**エネルギー** 川上から川下まで、国内屈指の総合力で電力インフラを構築。

創業以来携わってきた伝統あるビジネスであり、発電から送変電、配電に至る全てのフェーズにおいて、世界各国の電力インフラの発展に大きな役割を果たしてきました。クリーンエネルギーの需要が高まるなか、スマートグリッド関連事業など、新たなエネルギービジネスも積極的に展開しています。

主な製品

- タービン発電機 ■保護、制御システム ■真空遮断器
- 変圧器 ■受変電システム ■系統安定化システム
- 開閉装置 ■太陽光発電システム

**自動車機器** 多彩な製品群で、モータリゼーションの発展を支える。

世界で初めて製品化した電動パワーステアリングを始めとして、世界トップクラスのシェアを誇る数多くの製品で安全・安心・快適なクルマ作りを支えています。電気自動車やハイブリッド車の普及、自動運転の実現など、変わり続ける時代のニーズを様々な視点からとらえ、誰もが安全に安心して利用できるクルマ作りに貢献していきます。

主な製品

- エンジン電装品 ■電動パワーステアリングシステム
- エンジン制御製品 ■カーマルチメディア製品
- 電動化関連製品 ■予防安全製品

**通信** 情報を「送る」技術で、快適なコミュニケーションを実現。

インターネットなどの通信インフラ上で、高画質動画コンテンツなど大容量データを高速でやりとりするために、光ブロードバンドサービスに対応した製品を手がけています。また、安心・安全な社会の実現に貢献する映像セキュリティシステムや、エネルギーの最適利用に向けたスマートグリッド用通信システムなど、多彩な製品を通じて豊かな社会づくりを支えます。

主な製品

- 光ブロードバンドシステム ■無線アクセスシステム
- ホームICTシステム
- 映像セキュリティシステム ■列車無線システム

**空調・冷熱** 暮らしや産業のあらゆるシーンで快適性・省エネ性を求めて。

ルームエアコン「霧ヶ峰」に代表される住宅用から、ビル用、産業用まで幅広く省エネ効率の高い空調機を提供しています。一方で冷凍・冷蔵などの低温分野においても、低温倉庫・食品加工場やアイススケートリンクの製氷用冷凍機など、流通から産業分野まで幅広い低温システムを提供しています。

主な製品

- ルームエアコン ■業務用空調機
- 低温・給湯・産業冷熱

**ITソリューション** 暮らしのあらゆる場面に、ITで快適・安心・発展を提供。

金融機関や製造現場、社会インフラ（交通・航空・空港・電力）、デベロッパーなど幅広い分野において、暗号化を始めとするセキュリティ技術やIoT技術、及びクラウド基盤の活用により、豊かな暮らしと社会を支えるITソリューションを提供しています。

主な製品

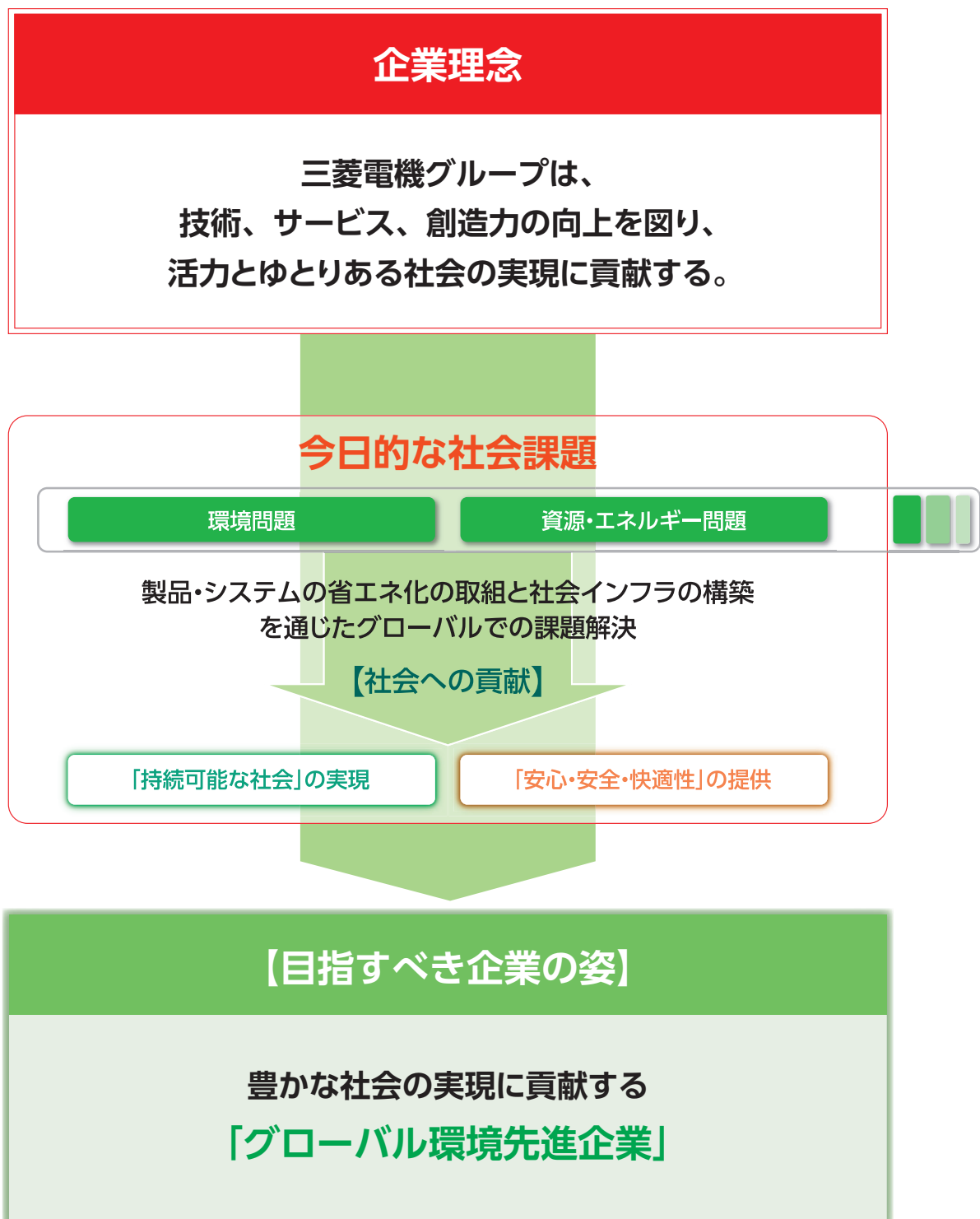
- ターミナルリーダー情報処理システム ■空港旅客案内情報システム
- エネルギーマネジメントシステム
- 大規模セキュリティシステム



# 目指すべき企業の姿

三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献することを「企業理念」とし、すべての企業活動の原点としています。

今日的な社会課題のうち、三菱電機グループは「環境問題」や「資源・エネルギー問題」に対する製品・システムの省エネ化の取組と社会インフラの構築を通じたグローバルでの課題解決により、持続可能な社会と安心・安全・快適性が両立するような豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」と社会から評価される企業を目指していきます。



# 社長メッセージ

「活力とゆとりある社会の実現」に寄与する取組により、ステークホルダーの信頼に応え、持続的成長を目指します。



## 社会への貢献をすべての事業活動の中心に

「三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する」という企業理念を、すべての事業活動の中心に据えています。私自身、1970年代に三菱電機がつくる大型発電機に魅力を感じて入社し、一技術者として仕事に携わる中で「電気がない国にあかりを灯す」という喜びを感じました。インフラ整備を通して生活改善の一助となれる誇りと手ごたえが、私にとって「活力とゆとりある社会の実現」に向けた取組の原点となっています。

2014年に執行役社長に就任してからは、国内外の様々な拠点を訪れるたびに、従業員に対して「事業を展開する国や地域に貢献することが私たちの使命」であることを伝えてきました。企業の本質はまさにそこにあり、単に売上げや収益を伸ばすだけでは意味を成しません。社会から本当に求められ、喜んでいただける製品・サービスを提供していくことが最も重要で、業績などの数字は結果として付いてくるものです。

こうした考えのもと、目指す姿として掲げるのが、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」です。今日的な社会課題に対してグローバルに解決に取り組み、「持続可能な社会」の実現と「安心・安全・快適性」の提供の両立を通じて、社会・顧客・株主・従業員などすべてのステークホルダーに満足いただけるよう、「成長性」「収益性・効率性」「健全性」の3つの視点によるバランスの良い経営をしていくことが、三菱電機グループの成長戦略の主軸となっています。

## 経営と一体化したCSR推進のためCSRの4つの重要課題を策定

三菱電機グループでは、CSRの取組を企業経営の基本を成すものと位置付け、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針として推進しています。2015年度には、CSRをより経営と一体化し、長期的に推進していくため、CSRの4つの重要課題を策定しました。

1つ目が、「持続可能な社会」の実現です。私たちが提供する製品・サービスの多くは省エネルギーに貢献するものであり、環境分野でナンバーワンを目指します。2015年度には、

小田急電鉄株式会社に鉄道車両の消費エネルギーを約4割削減できる「鉄道車両用フルSiC適用電力回生・高調波損失低減システム」を納入し、第36回優秀省エネルギー機器表彰の経済産業大臣賞を受賞しました。また、中国電力株式会社向けに隠岐諸島へハイブリッド蓄電池システムを納入しました。太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーは、天候に左右され、安定した電力供給が難しいという問題を解決すべく、再生可能エネルギーを安定利用するための技術実証を行っ

ています。その他、リサイクルや環境負荷低減の取組については、地球規模での視点に立ち、各国の法で求められる基準以上の取組で貢献します。

2つ目が、「安心・安全・快適性」の提供です。私たちが提供する製品・サービスは、住まいやセキュリティー、交通など様々な領域で人々の豊かな暮らしを支えています。世界で初めて開発に成功した「レーダーによる津波監視支援技術」は2015年度から実運用の段階に入っており、沿岸地域の防災・減災に貢献します。また、当社の強みでもある衛星関連事業では、準天頂衛星システムによる高精度な位置情報を活用し、自動運転の実用化に向けた安全精度向上や社会インフラの適切な維持管理に貢献します。

3つ目が、人権の尊重と多様な人材の活躍です。出産・育児や介護など様々なライフステージを迎えた従業員が、仕事と生活を両立して生き生きと働ける職場環境づくりに取り組んでいます。また、海外の従業員が増え続ける中、多様な背景を持った人材が活躍できる職場づくりを進め、中長期的な視野を持って人材の多様化に取り組めます。一方、国際規範に則り、サプライチェーンを含めた三菱電機グループ全体で人権の尊重にも取り組めます。

4つ目が、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの

継続的強化です。コーポレート・ガバナンスについては、コーポレートガバナンス・コードへの適切な対応を図るなど、継続的な向上策に取り組めます。コンプライアンスについては、「倫理・遵法の徹底」は会社が存続するための基本であるとの考えの下、「法、社会倫理、あるいは社会常識にもとる行為をしなければ達成できない目標の設定やコミットメントはしない」ことを宣言しています。更に、従業員一人ひとりにも社会を構成する一員として「倫理・遵法に反する行為は行わない」ことを自らの責務として強く認識し、常日頃から数段高い倫理観を持って誇り高き行動をとるよう求めています。

三菱電機グループは創立100周年を迎える2020年度までに達成すべき目標として掲げる「売上高5兆円以上、営業利益率8%以上」を、これら4つの重要課題への真摯な取組を通じて実現してまいります。



## 変革に挑戦し続ける企業グループとして

100年近い三菱電機グループの歴史を支えてきたのは、「常により良いものを目指し変革していく」という企業風土です。2001年に定めたコーポレートステートメント「Changes for the Better」はまさにその表れであり、私自身とても好きな言葉です。Changesと複数形にしている理由は、変化の場面・局面はいくつもあること、Bestではなくthe Betterとしている理由は、今日の最善は明日の最善とは限らず、変革には終わりが無いことを意味します。

「ダーウィン進化論」にもあるように、環境の変化に対応できたものだけが生き残ることができます。外部環境の変化が激しい中で企業が発展していくためには、社会の期待に応じた革新を続け、必要とされ続ける存在とならなければなりません。「より良い未来には三菱電機グループの製品・サービスや技術が必要」と信頼していただいた結果が、業績の向上や「この会社で働きたい」と考える優秀な人材の確保を可能にし、企業として更に安定した成長基盤づくりにもつながることでしょう。

すべての三菱電機グループの従業員には、今の状態に満足して安住することなく、常に新たな挑戦をし続けていくことを期待しています。「家庭から宇宙まで」の幅広い製品群を持つ三菱電機グループであればこそ、それらの連携により新たな価値を生み出せます。そのためには部門間交流のいっそうの活性化や、複数事業のシナジー強化が欠かせません。また、世界で約14万人のグループ従業員が活動しており、国境を越えた連携を高めることも重要です。

三菱電機グループはより素晴らしい未来にむけ、「持続可能な社会」と「安心・安全・快適性」が両立する豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」として、変革に挑戦し続け、もう一段高いレベルの成長の実現に取り組んでまいります。

執行役社長

柵山正樹



# 三菱電機のCSR

## CSR マネジメント

### CSRに対する考え方

三菱電機グループでは、CSRの取組を企業経営の基本を成すものと位置付け、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし推進しています。特に倫理・遵法に関する取組については、教育の充実や内部統制の強化など、グループを挙げて対策を徹底しており、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションなどについても、積極的な取組を展開しています。

### 理念

#### 企業理念

三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

#### 7つの行動指針

- 1. 信頼** 社会・顧客・株主・社員・取引先等との高い信頼関係を確立する。
- 2. 品質** 最良の製品・サービス、最高の品質の提供を目指す。
- 3. 技術** 研究開発・技術革新を推進し、新しいマーケットを開拓する。
- 4. 貢献** グローバル企業として、地域、社会の発展に貢献する。
- 5. 遵法** 全ての企業行動において規範を遵守する。
- 6. 環境** 自然を尊び、環境の保全と向上に努める。
- 7. 発展** 適正な利益を確保し、企業発展の基盤を構築する。

### 経営方針

バランス経営の継続と  
持続的成長のさらなる追求



#### 変革への挑戦

変革に挑戦し続け、次の地平を拓く。

#### 4つの満足

社会への貢献

社会の満足

企業価値の向上

株主の満足

よい製品・サービスの提供

顧客の満足

働きがいのある職場づくり

従業員の満足

経営計画に基づいた企業活動を行い、2015年度に特定したCSRの重要課題と目標／取組指標（KPI）についてPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルによる継続的な改善活動を実施し、豊かな社会の実現に貢献します。

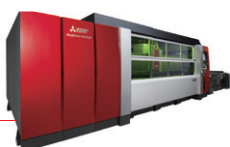
## 企業活動

### 事業を通じた取組



重電システム

産業メカトロニクス



情報通信システム



電子デバイス



家庭電器

### 事業を支える取組



環境

社会

ガバナンス



## CSRの重要課題

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指し、4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。



持続可能な社会の実現



安心・安全・快適性の提供



人権の尊重と  
多様な人材の活躍



コーポレート・ガバナンス、  
コンプライアンスの  
継続的強化

目標  
取組指標  
(KPI)

豊かな社会の  
実現に貢献

# CSR マネジメント

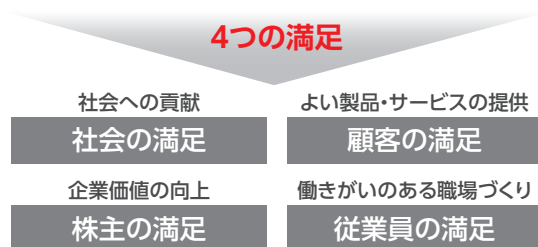
## 三菱電機グループのステークホルダー

三菱電機グループが持続的に成長していくためには、様々なステークホルダーとコミュニケーションを取ることが必要です。各ステークホルダーからの期待や要請・ご意見を企業活動に反映させ、社会に対してマイナスの影響を減らし、プラスの影響を増やしていくことが、三菱電機グループにとっての



CSRです。

ステークホルダーとのコミュニケーションについては、経営方針として「4つの満足」を掲げており、社会・顧客・株主・従業員などすべてのステークホルダーに満足いただけるよう、しっかりと取り組みます。



## CSR 推進体制

CSRの取組は、当社の執行役員から委嘱を受けたCSR委員会で全社活動の取りまとめを行っています。CSR委員会は当社の管理部門長から構成されており、前年度の活動実績の把握や今後の活動計画の決定、法改正への対応など、三菱電機グループ横断的な視点から議論を行っています。



CSR推進体制

具体的な活動については、CSRに関する活動は企業経営そのものであるとの認識から、倫理・遵法、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションなど、それぞれを職掌する部門が三菱電機グループに共通するCSR方針に基づき、責任を持って推進しています。

## CSRワーキンググループの開催

CSRに関連の高い社内部門が集まり、定期的にワーキンググループを開催しています。三菱電機グループのCSRの重要課題や今後の取組の活性化、法規制やCSRの国際規格への対応について、コミュニケーションを取りながら議論を重ねています。



CSR委員会



CSRワーキンググループ

## CSR社内浸透策

CSRの社内浸透の取組として、役員層へのCSR講演会、国内のグループ会社の総務部長の会議、新入社員へのCSR研修を適時開催しています。また国内外のグループ会社に配布

している社内報でもCSRに関する記事を掲載し、従業員一人ひとりがCSRについて考える、貴重な機会となっています。



# CSRの重要課題

三菱電機グループは、現在の社会動向、事業環境も鑑み、GRIガイドライン第4版（G4ガイドライン）でも要求されているCSRの重要課題（マテリアリティ）を2015年度に特定しました。

その特定プロセスや、あわせて策定した各重要課題に対する取組項目と目標／取組指標（KPI）については、ウェブサイトをご覧ください。今後も社内外の声を取り入れながら、PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルによる継続的な改善活動により取組を強化し、情報開示の拡充を図ります。

## 三菱電機グループのCSRの重要課題と取組項目

[http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/policy/index.html#important\\_issue](http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/management/policy/index.html#important_issue)

### 重要課題の特定プロセス

Step  
1

#### 社会的課題の認識

ガイドライン等からの重要課題候補の抽出

Step  
2

#### 社内外の意見の把握と重要課題の特定

- 各ステークホルダーへのアンケート
- 有識者へのヒアリング
- 有識者とのダイアログ
- 社内ワーキンググループ

Step  
3

#### 重要課題の決定

## 三菱電機グループのCSRの重要課題

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、豊かな社会の実現に貢献する「グローバル環境先進企業」を目指し、4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。

4つの重要課題	取組項目
 <b>持続可能な社会の実現</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「環境ビジョン2021」の実現                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●低炭素社会の実現</li> <li>●循環型社会の形成</li> <li>●自然共生社会の実現</li> <li>●環境経営基盤の強化</li> </ul> </li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■製品・サービスを通じた貢献</li> </ul>
 <b>安心・安全・快適性の提供</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■お客様の安全を第一とした製品作り</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■お客様の声を反映した製品・サービスの提供</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■お客様を最優先とする品質マインドの教育の継続的实施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■製品・サービスを通じた貢献</li> </ul>
 <b>人権の尊重と多様な人材の活躍</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■差別的取扱の禁止と人格の尊重</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■仕事と生活を両立して生き生きと働ける職場環境の実現</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■多様な人材の採用・活用によるダイバーシティの推進</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■労働安全衛生と心身の健康の確保</li> </ul>
 <b>コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ステークホルダーとの積極的な対話</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■健全なチェック機能が働く企業経営</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コンプライアンス研修の継続的实施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■公正な競争（独占禁止法違反防止）の推進</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■汚職防止（贈収賄防止）の徹底</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■CSR調達（環境、品質、人権、コンプライアンス等）の推進</li> </ul>

## 重要課題

# 持続可能な社会の実現



小田急電鉄 1000 形リニューアル車

## 再エネ、省エネで、低炭素社会に貢献

低炭素社会の実現は、世界が抱える重要な課題です。三菱電機では風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギー（再エネ）の活用に資する蓄電池の制御システム、及び鉄道での電力消費を大幅に削減するインバーター装置など、環境負荷低減に貢献する技術の開発と運用に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献しています。

## 鉄道ソリューション

### —— 鉄道の電力消費量を大幅に削減

低炭素社会の実現に向けて、鉄道そのものにかかる期待は大きいと言えますが、その鉄道で消費する電力を大幅に低減できれば、その貢献を加速させることができるでしょう。

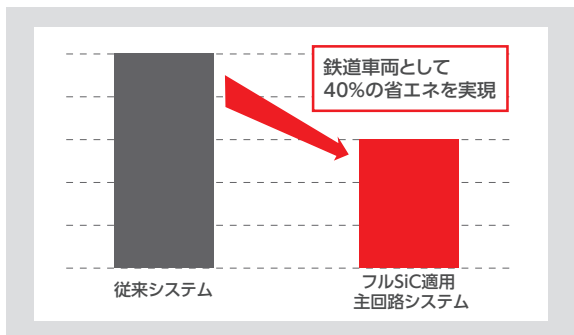
当社が開発した「フルSiC適用主回路システム」は、電車のモーターを駆動するために、架線から受け取った直流の電力を交流へと変換するVVVFインバーターやフルSiCに最適化した高効率モーターなどで構成されています。鉄道車両用インバーターに適用する半導体の素材に、世界で初めてとなるフル

SiC（炭化ケイ素）を採用したことで、従来のSi（ケイ素）を使った場合と比べて、変換時の電力ロスを削減。更にブレーキ時に発生する回生電力を増加させることができ、トータルで約40%の電力を低減することに成功しました。

この装置は小田急電鉄株式会社へ納入し、2015年1月から営業運転を開始しています。2015年11月には、「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）」を、小田急電鉄株式会社と当社とで協同受賞することができました。また、同技術の展開により、優秀省エネルギー機器 経済産業大臣賞、市村産業賞 功績賞を受賞しています。

同装置は、2016年6月までに、国内の鉄道会社（小田急電鉄株式会社ほか）に納入。今後も、フルSiCを用いたシステムの適用範囲を拡大し、低炭素社会の実現に貢献していきます。

なお、今回のパワーモジュール開発の一部は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託研究として実施したものです。



消費電力比較

## VOICE



伊丹製作所  
車両システム部  
パワーエレクトロニクス設計第一課  
専任

山下 良範

### 国内外を問わず裾野を広げていくのが役割

世界初となるフルSiCを実現できたのは、研究所と半導体専門の工場の間での人的交流を行い、三菱電機社内の様々な分野の担当者が知恵を出し合い、議論できる場があったからだと思います。

公共交通機関である小田急電鉄様では、故障を起こして交通を止めてしまうことは許されません。そのため、世界初の技術を導入するために数多くの信頼性評価を実施し、営業運用に就く前には実際の車両で累計5,004kmの試験走行も実施した上で、営業投入を果たしました。

小田急電鉄様には、低炭素社会に貢献する取組として車両内でPRもしていただきました。開発・導入に携わった私たちにとってもとても嬉しいことでした。

「フルSiC適用主回路システム」は、環境負荷低減という社会的な側面からも、インパクトの大きい技術です。その高い省エネ効果を多くの鉄道事業者様に知っていただき、今後も国内外を問わず、広めていくことが私の役割だと思っています。



蓄電池を設置した変電所（西ノ島、隠岐郡）

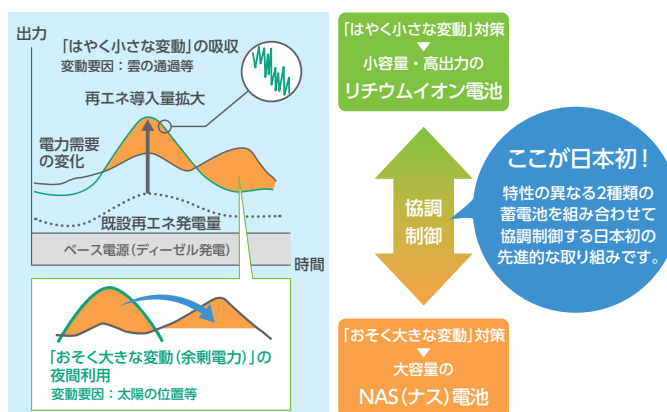
## 隠岐ハイブリッドプロジェクト

### —— 再生可能エネルギーの利用を促進

中国電力株式会社が2015年9月から、島根県隠岐諸島で行っている「隠岐ハイブリッドプロジェクト」（環境省「平成26年度離島の再生可能エネルギー導入促進のための蓄電池実証事業」）。太陽光発電や風力発電等の再生エネの導入を拡大し、CO<sub>2</sub>を削減して持続可能な社会を目指す3年間の実証事業です。

太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーは、天候状況によって発電量が変化します。そういった「はやく小さな変動」を吸収するために小容量・高出力のリチウムイオン電池を使用します。また、太陽光は昼に発電して夜は止まるため、昼間余った電力を夜使うなど、「おそく大きな変動」は、大容量のNAS電池で吸収します。特性の違う2種類の電池を組み合わせたハイブリッド蓄電池システムは日本初の試み。三菱電機は、そのハイブリッド蓄電池システムの設計と構築を担っています。

現在、隠岐諸島で必要な電力は約10,000～24,000キロワット。実証試験期間の3年間で、風力発電、太陽光発電を順次増やし、最終的には最小需要を上回る11,000キロワットの再生エネが導入される見込みです。



ハイブリッド蓄電池システム（出典：中国電力ウェブサイト）

## VOICE



電力流通システム部  
電力流通第一課  
専任

清水 恒夫

### 再生エネの利用を隠岐から世界へ広めたい

私は、2010年に三菱電機が実施した伊丹地区でのスマートグリッド実証実験、2013年には畷岐にて、2014年には対馬にて、リチウムイオン電池を導入した離島向け電力制御システムに携わり、2015年より本プロジェクトにおけるシステム取り纏めを担当しています。2015年9月から実証試験を開始。停電もなく、安定した電力供給が行われていることは、何よりも嬉しいことです。可愛いわが子のような気持ちで見守っています。

今後も実証事業の成功のため、現状の改善点について、中国電力様と頻りに勉強会を行い、よりよいシステムを育てて行けるよう、取り組んでいきます。海外でも、このようなシステムへの需要は増えていくことが予想されますが、当社の製品を広く普及するためにも、再生エネに対応した安定性と経済性を兼ね備えた電力制御システムの構築技術は不可欠です。隠岐プロジェクトをはじめ、伊丹地区での実証実験以来積み重ねてきた経験を生かし、様々なニーズに合わせて、最適な蓄電池とシステムの組み合わせを提案していきたいと思っています。





## 安全で快適な社会を衛星技術で実現

GPSや衛星放送、天気予報……。日々便利になる現代の生活は、人工衛星技術があっこそ。三菱電機は1960年代から人工衛星事業に携わり、衛星そのもののシステムのみならず、地上でそれを支え、ビッグデータを活用するシステム技術も開発しています。総合電機メーカーのシナジーという強みを活かし、新しい価値を社会へ提供しています。

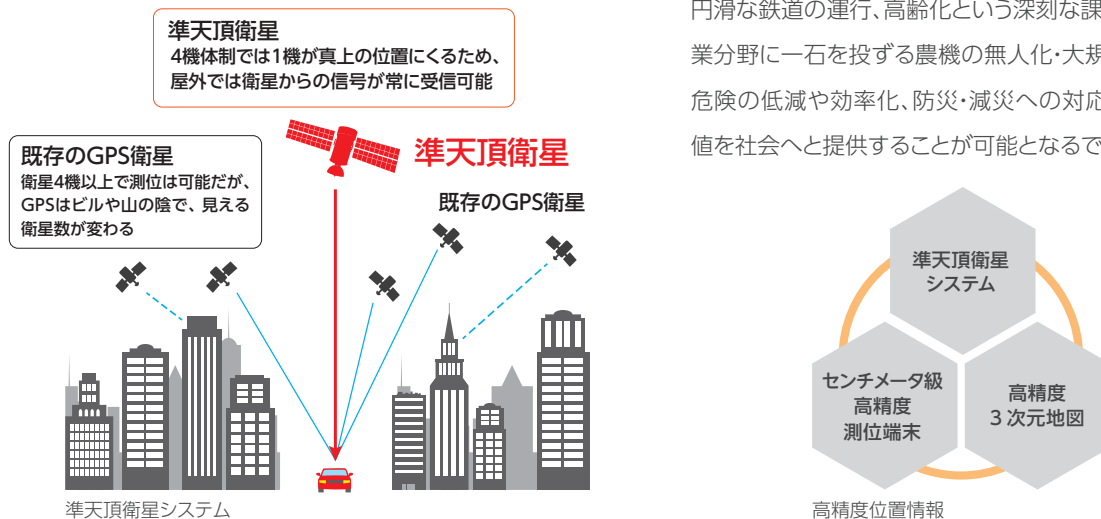
### 高精度な位置情報を配信する準天頂衛星が安全で効率的に社会の課題を解決

#### —— 準天頂衛星「みちびき」

準天頂衛星システムは、内閣府宇宙開発戦略推進事務局の整備事業であり、現在、2～4号機の衛星製造及び地上システムの整備が進められています。三菱電機は2010年9月に打ち上げられた宇宙航空研究開発機構の準天頂衛星初号機「みちびき」でのシステム設計・製造の成果をもとに、内閣府の下で2～4号機の製造を担当しています。2～4号機は2017年に打ち上げられる予定であり、2018年度から本格的なサービスが提供される予定です。

準天頂衛星は4機体制に移行すると、日本の天頂付近（準天頂）を常にカバーするため、米国のGPS衛星のみでの測位よりも、より正確な位置情報を取得することが可能となります。加えて当社が製造を担当する高精度位置情報提供サービスを利用することにより、その精度はセンチメートル級に達します。

このような高精度な位置情報の用途は計り知れず、その可能性が広がることが期待されます。日本政府が2020年の東京五輪に向けて実用化を目指すと言っている自動運転技術、より円滑な鉄道の運行、高齢化という深刻な課題を抱える日本の農業分野に一石を投ずる農機の無人化・大規模化、工事現場での危険の低減や効率化、防災・減災への対応等、様々な新しい価値を社会へと提供することが可能となるでしょう。



## VOICE



宇宙システム事業部 準天頂衛星推進部  
利用開拓プロジェクトグループ  
プロジェクトグループマネージャー

叶谷 晋利

### 準天頂衛星の可能性を模索しています

2003年から衛星を使った位置情報技術に携わり、2014年より準天頂衛星からの情報の利活用推進に従事しています。

準天頂衛星の技術活用の可能性は広がっています。人工衛星は今までユーザーがある程度限定されていましたが、準天頂衛星は多くのユーザーが利用できます。まだ知られていない技術を幅広く人々に伝える活動と、「みちびき」を活用した実証実験を様々な企業、研究者の方々に使ってもらう取組をしています。そこには大変さもありますが、この技術が人々の安心・安全・快適な暮らしに広く貢献できることを強く認識しており、2018年までにサービスを確立させるという使命感のもと、日々、その活用の可能性を探っています。

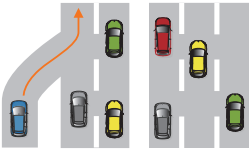


準天頂衛星「みちびき」

## 準天頂衛星が生み出す新しい技術・可能性

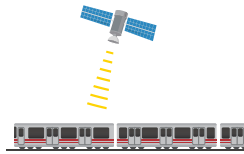
### 安全運転支援・自動走行分野

合流や車線キープをセンチメートル単位で見守る。高精度な自動走行システムを可能に。



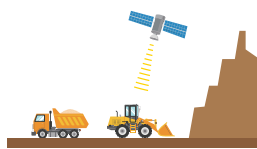
### 鉄道分野

列車位置をセンチメートル精度でリアルタイムに把握。よりきめ細かな運行サービスを実現。



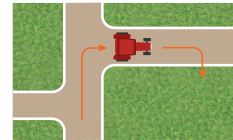
### 情報化施工分野

各種土木機器の作業や走行をセンチメートル単位で制御。危険な作業でも安全・確実な土木作業に貢献。



### IT 農業分野

農業機器の走行をセンチメートルの精度で制御。無人・自走による高効率な作業を可能に。



## 気象衛星は人の命にかかわるインフラ

### —— 静止気象衛星ひまわり8、9号

2014年に打ち上げられた「ひまわり8号」は、高解像度のカラー観測画像を短い時間で取得することができる新世代の気象衛星です。これまで以上に詳細な気象データが得られるため、ゲリラ豪雨のような局地的な気象現象から温暖化や砂漠化など地球規模の気象の変化を観測することもできます。気象データは台風や水害、火山活動などの自然災害による被害を小さくすることにつながり、人命をも左右する、なくてはならない情報といえます。そのため、衛星の精密度はもちろん、それを受信して解析する地上のシステムも高精度なものが求められます。

既に「ひまわり8号」の運用は開始し、2015年7月より日々の天気予報にも活用されています。天気予報の雲画像がカラーかつ滑らかになったとの声を、多くの方からいただいています。

アジア・オセアニアエリアなどにもサービスを提供することで、広く世界にも貢献できるため、これからも利用拡大に向け取り組んでいきます。



画像のカラー化

## VOICE



鎌倉製作所  
宇宙システム部  
ひまわりプロジェクト部長

西山 宏

### 様々なプロをまとめあげる コミュニケーション力の大切さ

「ひまわり8号」から発信された世界初の高性能の地球のカラー画像を目にしたとき、予想以上の映像の美しさに、驚きの声があがりました。

衛星本体については、打ち上げ後はメンテナンスができず、また過酷な宇宙空間でどこまで確実に保証できる品質を生み出すか…。プロジェクト全体では地上設備の製造会社、運用会社、気象画像を分析される方など、沢山のプロフェッショナルとどう意識をあわせるか…。

壮大なプロジェクトにおいて様々な課題がありましたが、一つひとつの課題を丹念に時間をかけてクリアしていったことが、成功の秘訣だったと感じています。

### 防災分野



ひまわり

気象庁

TV

インターネット

ラジオ

より正確でスピーディな情報

正確な気象予測に貢献するひまわり8、9号



## 重要課題

# 人権の尊重と 多様な人材の活躍



**人権** [http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/society/human\\_rights/index.html](http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/society/human_rights/index.html)  
**労働慣行** <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/society/index.html#labour>



若手女性社員向けキャリアフォーラム

## 人権の尊重

2001年に策定した「企業倫理・遵法宣言」の「人権の尊重」の項目において「常に人権を尊重した行動をとり、国籍、人種、宗教、性別等いかなる差別も行いません。」と宣言しました。そして、2010年4月に改訂した「三菱電機グループ倫理・遵法行動規範」の中で、人権の尊重に関する行動規範も改訂し、この行動規範に則った取組を進めています。

具体的には、新入社員や新任の管理職に対して、人権に関する研修を継続的に実施し、差別やハラスメントのない健全な職場環境の確保や互いに多様性を認め合える組織風土づくりを目指しています。

## ダイバーシティの推進

当社を取り巻く環境の変化がますます激しくなる中で、性別や年齢等にかかわらず従業員が最大限に能力を発揮し、活躍することは事業の発展にとって非常に重要です。

女性活躍については、採用、研修、配置、制度など多角的な視点から各種取組を推進しています。ライフイベントとの調和を図りながら前向きにキャリア形成するための気づきの機会として、若手女性社員向けのキャリアフォーラムを開催しています。更に、管理職研修での女性活躍推進に関するカリキュラムを必須化し、意識啓発やマネジメント力強化に取り組んでいます。女性活躍推進法に基づく行動計画においても「2020年度までに技術系新卒採用に占める女性比率20%以上」とすることを目標として掲げ、理系女子学生を中心とした採用活動に積極的に取り組んでいます。

また、高齢者の多様な働き方支援、特例子会社「メルコテンダーメイツ株式会社」の設立やバリアフリー化による障がい者雇用の推進等によ



若手女性社員向けのキャリアフォーラムでの執行役社長 柵山からのメッセージ

## VOICE 研修受講者



パワーデバイス製作所  
資材部 外注課長

吉田 寛史

管理職研修の中で「企業と人権」研修を受講しました。身近な職場でのハラスメントも大きな人権問題であること、また自分も加害者となりうる立場にあることを再認識しました。また、人権と聞くと、人種・民族・性別等の世界的な問題と考えがちですが、人権への対応といっても身構えることなく、その人といかに向き合うか、その人を知りたい・理解したいと思うことが大切であること、またお互いの違いを認めた上で、フラットな目で見ているかを常々確認することが必要であると、研修を通して理解することができました。

り、多様な人材が活躍できる環境を整えています。

三菱電機グループは海外従業員が全体の35%を占めています。彼らに技術・技能・ノウハウを身に付けてもらうための国内の各製作所における研修、海外幹部候補者の研修の実施等により、世界中の人材が活躍できるグローバル企業を目指しています。



「メルコテンダーメイツ株式会社」のカフェ事業

## VOICE グループ従業員



Mitsubishi Electric de  
Colombia Ltda.

ラウラ レストレポ

私は日本では、海外拠点の幹部向け研修や海外拠点の従業員への企業理念の浸透等の業務に取り組んでいます。三菱電機グループがより社会へ貢献するためには、従業員一人ひとりが企業理念をしっかりと意識して行動することが重要ですので、非常にやりがいのある仕事です。

また、三菱電機グループが更に発展していくためには、国境を越えた連携を高めることも重要です。そのために、従業員同士がグローバルに交流を深められるように、推進していきたいと考えています。



理系専攻の女子学生と  
当社女性エンジニアとの交流会を開催



毎年10~20カ国から100名を超える人材を各製作所へ招いて研修  
写真(左)は執行役社長柵山と海外幹部候補者研修受講者、(右)は海外幹部候補者と日本人従業員との共同研修





2014年に事業所内に開設した託児施設「ダイヤモンドキッズ」

## 働きやすい職場環境の整備

従業員一人ひとりが限られた時間の中でその能力を最大限発揮でき、仕事と生活を両立しながらいきいきと活躍できる職場環境づくりに向けて、育児・介護に関する制度の整備と浸透、事業所内託児施設の開設やフレックスタイム制度といった様々な取組を実施しています。

更に、経営施策として「成果・効率をより重視する企業風土への変革」と「仕事に対する意識の改革」を通じた「働き方改革」に取り組み、限られた時間の中で最大の成果を発揮できるよう職場環境を整えていきます。



## VOICE 制度利用者



住環境研究開発センター  
空調冷熱技術開発部

竹田 恵美

2004年に入社し、入社8年目の時に子どもに恵まれ、1年間の育児休業(含・産前産後欠勤)を取得しました。復職してからずっと育児短時間勤務制度を利用しています。勤務時間に限りはありますが、やりがいのある仕事を任せてもらえ、社内の昇格試験にも合格することができました。子どもを持ってから、良い意味で肩の力が抜け、仕事がより楽しくなったと感じています。自分の時間が限られるからこそ、何でも一人でやろうとせず、周囲の助けを借りることができるようになりました。当社には女性の活躍を支援する風土が自然にできている気がします。

## 人材の育成

「企業は人なり、人の成長なくして企業の成長はあり得ない。」との方針の下、企業競争力の維持、発展、社会貢献に繋がっていくことが重要であると認識し、全従業員を対象に、人材育成に取り組んでいます。

当社の育成制度では、OJTをベースに日常的な業務ノウハウとマインドを伝承していくとともに、知識やスキルの習得、キャリア形成を各種Off-JTで補完しています。

新卒者やキャリア採用者に対しては、全員に研修を実施し、社会人としての意識向上を図るとともに、基礎知識の付与や、経営理念、コンプライアンスなどの初期教育を実施している他、入社後の節目の時期に階層別研修を実施しています。

また、「技能の伝承と技能水準の一層の向上」「技能尊重風土の更なる醸成」「トップレベルの技能者育成」を目的とした三菱電機グループ技能競技大会を毎年開催しています。

## 労働安全衛生と心身の健康の確保

「従業員の安全と健康を守ることをすべてにおいて優先する」ことを基本方針とし、いかなる社会・経営環境にあっても安全衛生を優先する風土を確立し、企業の社会的責任を完遂することとしています。

労働安全衛生マネジメントシステムを導入し、各事業所単位で安全衛生活動のPDCAサイクルを構築し、同一業種内でも低い労働災害発生率や強度率を達成しており、安全衛生教育

を展開する他、「安全の部屋」を設置するなど、従業員に対する危険体感教育の展開も強化しています。

また、健康企業の実現に向けて、「三菱電機グループヘルスプラン21」活動を展開しています。適正体重の維持、運動習慣づくり、禁煙運動、歯の手入れ、メンタルヘルスについて改善目標を設定し、達成状況を毎年評価しています。



三菱電機グループ技能競技大会の様子



姫路製作所の「危険体感道場」。危険感度向上のため、毎年関係会社を含めた構内全従業員6,000名を対象に教育



Mitsubishi Electric Taiwan Co., Ltd. では市の講師を招いて、肥満に関する健康座談会を開催



## 重要課題

# コーポレート・ガバナンス、 コンプライアンスの継続的強化



コーポレート・ガバナンス <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/governance/governance/index.html>

コンプライアンス [http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/society/fair\\_compliance/index.html](http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/society/fair_compliance/index.html)

## コーポレート・ガバナンス

### 基本的な考え方

三菱電機グループは、経営の機動性、透明性の一層の向上を図るとともに、経営の監督機能を強化し、持続的成長を目指しています。顧客、株主を始めとするステークホルダーの皆さまの期待により的確に応える体制を構築し、更なる企業価値の向上を図ることを基本方針としています。

### 経営層からのメッセージ



三菱電機株式会社  
専務執行役

大隈 信幸

当社は、「経営の監督と執行の分離」という基本理念を持つ指名委員会等設置会社であり、これに基づき、経営監督機能の長である取締役会長と、最高経営責任者である執行役社長を分離するとともに、両者を指名・報酬委員会のメンバーとはしていません。このように、経営の監督と執行を明確に分離することにより、当社はコーポレート・ガバナンスをより実効性のあるものとしています。






近年、我が国のコーポレート・ガバナンスのあり方には大きな注目が集まっており、政府が発表した「日本再興戦略2016」において、コーポレート・ガバナンスの更なる強化が謳われるとともに、2015年6月には上場企業が守るべき行動規範を示したコーポレートガバナンス・コードが策定・適用されました。企業にとっては、コーポレート・ガバナンスの強化は最重要課題の一つといっても過言ではありません。

こうした社会情勢等も踏まえ、当社は、「健全なチェック機能が働く企業経営」を目指し、取締役への適時適切な情報提供と取締役会レビューの実施や、取締役及び執行役に対する研修の適時適切な実施等とおして、より一層充実したコーポレート・ガバナンス体制を構築していきます。

## 社外取締役の有効な活用

当社の取締役会は12名で構成し、そのうち社外取締役が5名（構成比率42%）を占める体制としています。社外取締役は、取締役会等を通じて、内部監査人、監査委員会、会計監査人及び内部統制部門の活動状況についての報告を受け、客観的な視点から、当社経営に対する有益な発言を行うなど、経営のチェック機能を高め、より透明性の高い経営監督体制の整備に尽力しています。

### 社外取締役一覧（2016年6月29日現在）

地位	氏名、写真	担当	選任理由	取締役会出席率
社外取締役	 藪中 三十二	指名委員 報酬委員	国際情勢の専門家としてのご経験・ご見識は、当社にとって大変有益であり、社外取締役として客観的な視点から、当社経営に対する監督を行っていただけるものと判断しております。	100% (7/7回)
社外取締役	 大林 宏	指名委員長 監査委員	検事・弁護士としてのご経験・ご見識は、当社にとって大変有益であり、社外取締役として客観的な視点から、当社経営に対する監督を行っていただけるものと判断しております。	100% (7/7回)
社外取締役	 渡邊 和紀	監査委員 報酬委員	公認会計士としてのご経験・ご見識は、当社にとって大変有益であり、社外取締役として客観的な視点から、当社経営に対する監督を行っていただけるものと判断しております。	100% (5/5回)
社外取締役 (新任)	 永易 克典	指名委員 監査委員	銀行の経営に携われ、その経歴を通じて培われた経営の専門家としてのご経験・ご見識は、当社にとって大変有益であり、社外取締役として客観的な視点から、当社経営に対する監督を行っていただけるものと判断しております。	—
社外取締役 (新任)	 小出 寛子	指名委員 報酬委員	国際的な企業の経営に携われ、その経歴を通じて培われた経営の専門家としてのご経験・ご見識は、当社にとって大変有益であり、社外取締役として客観的な視点から、当社経営に対する監督を行っていただけるものと判断しております。	—

(注) 当社は、2015年度において、取締役会を7回開催しております。なお、渡邊 和紀氏の出席状況については、2015年6月26日の就任以降に開催された取締役会を対象としております。また、永易 克典氏、小出 寛子氏は、2016年6月29日開催の第145回定時株主総会において取締役に選任され、就任いたしました。



米国、欧州、アジア、中国、台湾、韓国地域の責任者が一堂に会したグローバルコンプライアンス会議

## コンプライアンス

### 基本的な考え方

三菱電機グループでは、2001年に制定した「企業倫理・遵法宣言」をコンプライアンスの基本方針として、「倫理・遵法の徹底」は会社が存続するための基本であると認識しています。このような認識の下、「法令遵守」のみに留まらず「企業倫理」の観点も含めたより広義の「コンプライアンス」を推進すべく、コンプライアンス体制の充実を図るとともに、従業員教育にも注力しています。

### コンプライアンスへの取組

トップからのコンプライアンスについてのメッセージのほか、コンプライアンスに対する取組姿勢や基本方針の周知・徹底を図っています。

また、グローバルレベルでコンプライアンス体制を整備し、コンプライアンス監査や内部通報窓口「倫理遵法ホットライン」の設置等の取組も実施しています。



相談窓口「倫理遵法ホットライン」社内周知用ポスター

### 多様な手法を駆使したコンプライアンス教育

事業遂行に必要な各種法令や三菱電機グループのコンプライアンスに対する考え方について、講習会、e-ラーニング、マニュアル配布などの様々な方法で浸透を図っています。

例えば、e-ラーニング、集合教育、通信教育のいずれかの方法で、事業に携わる世界各国の従業員を対象に教育を展開しており、国内(当社及び国内関係会社)では2015年度に114,415名が受講しています。海外でも例えば東南アジア・オセアニア地域にて統一的なコンプライアンスe-ラーニングを展開しており、6,698名が受講しています。



コンプライアンス講習会



### VOICE 研修受講者



三菱電機ライフサービス株式会社  
伊丹支店 フードサービス部  
木田 祐嗣

三菱電機関連会社向けコンプライアンス講座を受講し、改めてコンプライアンスの重要性を認識しました。私は業務上、取引先との契約書の作成をすることがあります。当講座で学んだ「契約書に織り込むべき項目」を常に念頭に置き、取引先と正しい契約書締結に努めていきたいと考えています。契約書締結以外にも、不正な事故を発生させないように、コンプライアンスの重要性を心に留めて業務に取り組みます。

### VOICE 推進担当者



Mitsubishi Electric Asia Co.,Ltd  
ユティナン  
プラナシン

私は、地域統括会社でアジア域内のコンプライアンス活動を企画・運営する業務を担当しています。国も事業も異なる多くのグループ会社に向け、タイ語・日本語・英語を駆使しながらガイドラインの策定や従業員教育の支援、個別相談への対応などを行っています。現地の法制度や各社の事業内容を踏まえつつ、世界で通用する高い倫理観をもって三菱電機の普遍的な方針や規範をグループ会社に徹底していくことが私の重要な役割であると考えています。



アジア地域コンプライアンスマネージャー会議



# 社会貢献活動

**社会貢献活動** <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/philanthropy/index.html>

## 理念

三菱電機グループは、社会の要請と信頼に応える良き企業市民として、持てる資源を有効に活用し、従業員とともに、豊かな社会づくりに貢献する。

## 方針

社会福祉、地球環境保全の分野において、社会のニーズを反映し、地域に根ざした活動を行う。科学技術、文化芸術・スポーツへの支援活動を通じ、次世代の人材を育む活動を行う。

## 4つの重点分野で着実に活動

### 社会福祉

#### —— 社員の善意の寄付を倍に、三菱電機SOCIO-ROOTS基金

全国の事業所では、社員からの寄付に対して会社が同額を上乗せするマッチングギフト制度「三菱電機SOCIO-ROOTS基金」を活用した地域の社会福祉施設支援活動を行っています。この活動では、各都道府県の共同募金会や社会福祉協議会にご協力いただきながら、障がいをお持ちの方や高齢者の支援施設、児童養護施設等へ寄付金や当社製品を寄贈しています。

また、災害発生時には社員の「支援を行いたい」との志を受け、全社で募金活動実施による義援金の拠出も行っています。東日本大震災では、義援金の拠出だけでなく、現在も被災した子どもたちを応援する活動を続けています。

2015年度は、全国の社会福祉施設と東日本大震災の被災地の子どもたちへの支援として、総額4,283万1,632円の寄付を実施しました。このうち、被災地の子どもたち支援としては、子どもたちの心のケアや遊び場づくり、自立支援、保護者

へのサポートを行っている8団体を支援しました。

一人ひとりの思いやりが大きなサポートとなる、との思いから、今後も社会で多くの笑顔の花を咲かせられるよう、地域に根ざした地道な活動を続けていきます。

### VOICE パートナー



社会福祉法人 中央共同募金会  
常務理事

中島 謙次氏

三菱電機SOCIO-ROOTS基金より、23年の長きにわたり、赤い羽根の共同募金会を通じて、全国の社会福祉施設等にその時々にも必要とされる細かなニーズにあわせてご支援をいただいています。継続的なご支援に心より御礼申し上げます。

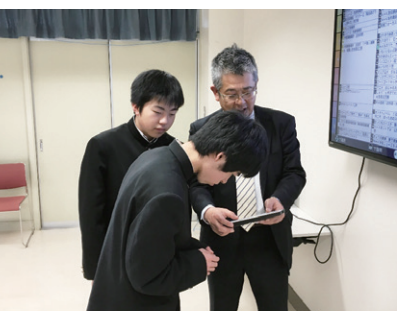
### 科学技術

#### —— 未来のエンジニアの卵を育てる

次世代を担う技術者の卵でもある若い人たちの向学心や探究心を伸ばすため、様々なかたちで理科の楽しさを伝えています。

人材開発センターでは2009年から「小・中・高校向け理科教育推進活動」を開始し、電気や熱、音や風などの基本原理や、通信や情報といったテーマを用い、学校での出前授業や理科実演イベントを行っています。

また2010年からは、事業所の社員が先生役となった子ども向け「科学教室」を開催し、全国13地域で、当社製品のしくみを「キーテクノロジー」（その製品においてなくてはならない技術を指す）として伝える活動を行っています。出前授業や工場のある地域への開放行事、イベント出展などの機会を使って、実験やクイズを交えた教室で、子どもたちをはじめとする地域との交流も図っています。



**社会福祉** 電子番組表等を音声で読み上げできる当社の液晶テレビ REAL（しゃべるテレビ）を盲学校へ寄贈



**社会福祉** 経済的に恵まれなかった子どもたちに対する教育支援（コロンビア）



**社会福祉** 障がいを持つ学生による職業体験受入（米国）

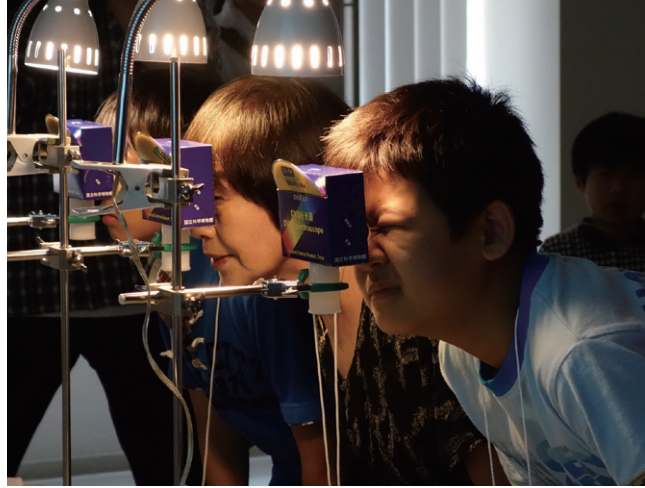


**科学技術** 科学教室「光万華鏡工作」





社会福祉 宮城県石巻市で被災した子どもたちの遊び場づくりを行うNPOへの支援



科学技術 DVD分光器を使って光のスペクトルを見る実験



地球環境保全 東京湾アマモ再生活動

## 地球環境保全

### —— 地域への貢献と環境マインドの育成

「里山保全プロジェクト」は社員が主体となった活動で、行政や地域の皆様による理解のもと、事業所周辺の公園や森林、河川などの「身近な自然」の回復に取り組んでいます。

地域のニーズに耳を傾け、全国14地区で、森林保全や離島での環境整備、海でのアマモ再生といった幅広い活動を展開しています。社員自らが汗をかいて活動に取り組み、地域の方々とのコミュニケーションを深めています。また、里山保全

活動のフィールドを活用した子ども向け野外教室により、子どもたちの自然を大切にする気持ちを育んでいます。

さらに、東日本大震災の被災地に寄り添い、継続して復興を応援する取組として、公益財団法人日本環境協会等が実施する被災地のどんぐりを育てるプロジェクトに参加しています。社内で募った全国の社員約1,400名が2012年から、家族とともに苗の成長を楽しみながら被災地に思いを寄せています。

### VOICE 活動参加者



名古屋製作所  
NCシステム部  
NCシステム第五課  
中澤 秀彦

「里山保全プロジェクト」に定期的に参加しています。傾斜地で足場が不安定の中で間伐したり、刈ってもすぐに成長する笹に根気強く対応したりと大変な時もありますが、花の美しさや新緑の芽吹き、鳥の鳴き声に日々癒されています。活動をする中で自然環境を守ることの難しさを感じたことで、普段の生活で節電やごみの減量に積極的に取り組みはじめました。里山をこれからも残していくために、次の世代に里山の大切さや楽しさを伝えていきたいと考えています。

### VOICE パートナー



公益財団法人日本環境協会  
教育事業部長  
川村 研治氏

当協会が全国事務局を務める「こどもエコクラブ」では、延べ200万人を超える環境活動・学習をしている子どもたちを応援してきました。環境と調和した社会・経済を創る力を持った人材を育てるには、企業の方々とともに活動することが必要であり、三菱電機様にはパートナー会員として支援をいただいています。

また、東日本大震災からの緑の再生と心の復興を目的とし、どんぐりを育て、被災地に植樹する「プロジェクトD」にご参加いただいています。植樹や育林を通じて、未永く被災地との絆を保ち続けていただくことを期待しています。



科学技術 タイ国三菱電機財団による工学系大学生への奨学金授与式



地球環境保全 里山保全活動における傾斜面での遊歩道づくり



地球環境保全 みつびしでんき野外教室

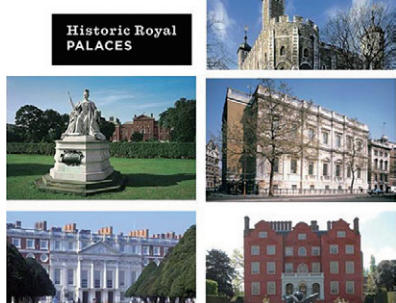


地球環境保全 現地3拠点合同での植樹活動(インドネシア)





文化芸術 絵画展 口と足で表現する世界の芸術家たち(三菱電機ビルテクノサービス株式会社)



文化芸術 Historic Royal PALACES ヒストリック・ロイヤル・パレスへの支援 (イギリス)



文化芸術 パラオ音楽祭への支援 (スペイン)



スポーツ スペシャルオリンピックスへのサポート (イタリア・ドイツ)

## 文化芸術・スポーツ

—— 人生をより一層、豊かに、楽しく

### ● 文化芸術

三菱電機ビルテクノサービス株式会社は、手の自由を失った世界各国の画家が、口や足に絵筆を取り描いた絵画を展示する「絵画展 口と足で表現する世界の芸術家たち」を全国で開催しています。1991年に購入した「口と足で描く芸術家協会」の画家による作品がきっかけとなり、その懸命さと力強さに感動した社員たちが地域の人々にも作品を鑑賞してもらおうと始めた手づくりの絵画展が、現在まで続いています。社員やその家族によるボランティア運営によって、活動を大切に引き継いでいます。

### ● スポーツ

三菱電機のスポーツチーム（バスケットボール、テニス、アメリカンフットボール、バドミントン）は、各地で開催されるクリニックへ選手を積極的に派遣し、スポーツの楽しさと、試合に挑む力強い気持ちやあきらめない気持ちを子どもたちに伝えていきます。

近年では、車椅子テニスクリニックやブラインドテニス交流会に加え、車椅子バスケットボールやウィルチェアラグビーへの大会協賛・社員ボランティア派遣を通じ、健常者と障がい者の相互理解につながる、スポーツの持つ可能性を応援しています。

また、2011年からは東日本大震災の復興支援活動にも取り組んでいます。宮城県や福島県でのスポーツクリニックは、恒例行事として地域の方たちを楽しみにいただいている他、被災地での農業支援等の復興支援ボランティアにも取り組んでいます。

## VOICE 運営担当者



三菱電機ビルテクノサービス株式会社 総務部 広報室 福富 芳子

(写真中央が本人)

私は「絵画展 口と足で表現する世界の芸術家たち」の企画・運営を担当し7年目になります。会場でご実演頂いた画家さんからは、衆目の中での創作やマスコミの取材対応などでお疲れにもかかわらず、「楽しかった。また呼んでね」とのありがたい言葉を頂戴し、ご自分たちの活動を知ってもらうこと、会場での交流を創作のモチベーションの一つにさせて頂いていると感じます。私も画家さんから、あきらめないこと、ひたむきに続けることの大切さと生きる勇気を学びました。これからもハンディキャップを持つ人とご来場者を結ぶお手伝いできればと思います。



スポーツ バスケットボールクリニック



スポーツ アメリカンフットボールチームによる南三陸町での農業支援ボランティア



スポーツ ブラインドテニスの交流イベント

# 三菱電機グループ CSR の取組 ウェブサイト/ハイライト掲載情報一覧

ウェブサイトには、三菱電機グループのCSRに関連するより詳しい情報を掲載しています。

- CSRの取組 <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>
- 環境への取組 <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>
- 三菱電機について <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/gaiyo/index.html>

◎= ウェブサイト、ハイライトともに掲載 ●= ウェブサイトのみ掲載 ○= ハイライトにも一部掲載

編集方針		◎	
会社概要及び業績		◎	
三菱電機の事業		◎	
目指すべき企業の姿		◎	
社長メッセージ		◎	
三菱電機のCSR	CSRマネジメント	○	
	ステークホルダーとのコミュニケーション	●	
事業を通じた社会への貢献	持続可能な社会の実現	◎	
	安心・安全・快適性の提供	◎	
事業を支える取組 ガバナンス	コーポレート・ガバナンス	○	
	リスクマネジメント	基本的な考え方	●
		環境リスクへの対応	●
		災害対策の取組	●
		情報セキュリティへの対応	●
株主・投資家とともに	●		
事業を支える取組 環境		○	
事業を支える取組 社会	お客様への対応	基本的な考え方	●
		四つの品質基本理念	●
		製品安全に関する方針	●
		マネジメントシステム	●
		品質改善活動の展開	●
		製品の使いやすさのために	●
		顧客満足度を高めるために	●
	製品不具合発生時の対応	●	
	公正な事業慣行	コンプライアンス	○
		知的財産権の保護	●
		サプライチェーンで果たすCSR	●
	人権	人権の尊重	○
	労働慣行	人材に対する考え方	●
		人事基本データ	●
		ダイバーシティの推進	○
		働き甲斐のある職場づくり	●
		働きやすい職場環境の整備	○
人材の育成		○	
労働安全衛生と心身の健康の確保	○		
社会貢献活動		○	
ガイドライン対照表	ISO26000対照表	●	
	GRIガイドライン第4版対照表	●	
	環境報告ガイドライン対照表(2012年版)	●	
ESG調査用インデックス		●	





**eco Changes** **家庭から宇宙まで、エコチェンジ。**

「eco changes」は、家庭・オフィス・工場から社会インフラ、そして宇宙にいたるまで、幅広い事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していく、三菱電機グループの環境ステートメントです。

一人ひとりが、エコチェンジ。  
ものづくりを、ビジネスを、エコチェンジ。エコチェンジ。

お問い合わせ先：〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3〈東京ビル〉 CSR事務局 TEL (03) 3218-2075

